

## 近代日本建築思想の自立と発展

## —建築家の言説にみられる大正から昭和中期までの建築論

正会員 ○ 姜 涌\*  
同 桜木博章\*\*  
同 北川啓介\*\*  
同 近藤正一\*\*\*  
同 若山 滋\*\*\*\*

## 研究の対象と方法

日本における近代的意味の「建築」は、明治維新からの西洋文明に対する積極的な導入と移植と共に、西洋建築の材料・構造・様式に対する学習と模倣から開始した。明治20年以後、工部大学校における日本建築家の最初の育成・「造家学会」の創立と活動によって、欧米直写から日本の「独自」の建築学と建築様式が初めて発展され、この時期は近代日本建築思想の草創期（黎明期）であると言える。20世紀初頭、特に日露戦争の後、国粋の高揚と国威の表現の要求が高まり、議院建築における「伊国復興式」→「本邦趣味」→「現代国家隆興の精神の表現」の様式変化と論争は、建築界の焦点となる。一方で、大正初期から昭和前期（第二次世界大戦）までにおける建築と都市の改造・外国の先進文明の導入・都市と市民生活の発展・イデオロギーの強制によって、建築様式と建築理論にめぐる真剣な探索が起伏される。この時期は、日本建築の自立と発展の時期と言え、今まで日本建築思想の泉源として影響しつつある。

本研究は、この時期における建築雑誌にみられた建築家の言説を中心とし、代表的な建築雑誌である『建築雑誌』と『建築世界』を対象として、1913～1944年（大正初期から第二次世界大戦末期一時休刊まで）の対象期間に掲載された建築論文を考察し、建築家の言説の切り口から、日本の近代建築思想を整理しようとするものである。

## 日本建築思想の自立と発展に対する総括的考察

本論文は、前述した方法に従って、この時期における建築家の建築観が明確に著されている論文498篇を抽出し（1913～1944年における研究対象となる『建築雑誌』の論文は179篇、同時期の『建築世界』の論文は319篇、論文のリストが省略される）、建築論文要旨の分析と検出を行い、時間の横軸と建築理論の「社会背景—建築—文化背景」の縦軸（建築学と社会・文化背景との相互関係）に基づいて建築家の言説を配置し、テーマ別にグルーピングし、建築思想の流れと構構性を考察する。

1913～1944年の日本建築雑誌に見られる建築家の言説は、当時の社会的・文化的な背景と建築界の関係性を配慮し、建築思想変遷における6階層の再構築と6期の歴史的な分類ができる。（図1）

## 日本建築思想の構成と特徴

日本では、明治期の西洋建築の技術的・様式的な模倣から1910年代における建築理論と様式の自立へと転換し、ヨーロッパ建築と芸術思想と運動の影響を受けつつ、歴史的様式主義・表現主義・機能主義・唯物主義の建築運動と建築観を積極的に導入した。日本の建築防災と伝統の風土性による構造学派と日本的表現、1930年代の侵略戦争におけるファシズムの指導思想による国家様式と大東亜様式の表現など、様々な建築思想が混在し融合し、概ね「科学化」・「民族化」・「社会化」・「表現化」の軸に基づいて議論され、多層面の建築思潮が現れ、その潜在する建築の「芸術的表現主義」と「科学的合理主義」の矛盾・対立と統合は、日本建築思想の潮流の大筋を導いた。即ち、構造学派が代表とする科学主義現実主義（構造・技術・人間の生活・機能・工芸性・生産性など要素主義観念を基とする技術機能の合理主義・即物性・社会主義・国家主義、主に大学の先生など研究者・学者の陣営）と、芸術家・建築家・少壮派陣営の芸術表現主義浪漫主義（セセッション・表現主義・構成主義・芸術の創造・唯美主義・唯美の浪漫主義・田園主義・茶味ワビとサビの日本趣味・個人主義と自由・近代主義中の立体主義・未来主義）の二つの潮流は、建築界の根本的な理論の対立と論争となっている。

## 結び

本研究は、日本建築の近代化、特に1913～1944年における日本的・独自の建築理論と様式の自覚と自立期を中心として、その時代の代表的な雑誌である『建築雑誌』と『建築世界』から498篇の建築論文を考察し、建築作品と社会背景における建築思潮の分類と系譜化を行ったものである。この時期における日本建築思想の主要な特徴としては、学術流派の平行進行性、西洋の建築思想と様式の強い影響を受ける建築思想の模倣性と断片性・西洋建築論の導入の原動力・建築論の論争と変遷性・「民族化」「社会化」「科学化」の主題・近代建築様式における民族化と独自性の探索であると言える。日本における西洋近代建築文明の導入・模倣・消化・創造の建築近代化と本土化の過程、特に建築論の導入と発展・建築理論と社会背景の関係における科学化・本土化・社会化の過程及び避けられない矛盾と進路は、日本だけではなく、アジア及び世界中で真剣に検討されなければならない議題であると思われる。

## The Character and Development of Japanese Modern Architecture —Architects' Discourses and Theories in the 1919s-1940s

JIANG Yong, SAKURAKI Hiroyuki, KITAGAWA Keisuke, KONDO Shoichi, WAKAYAMA Shigeru

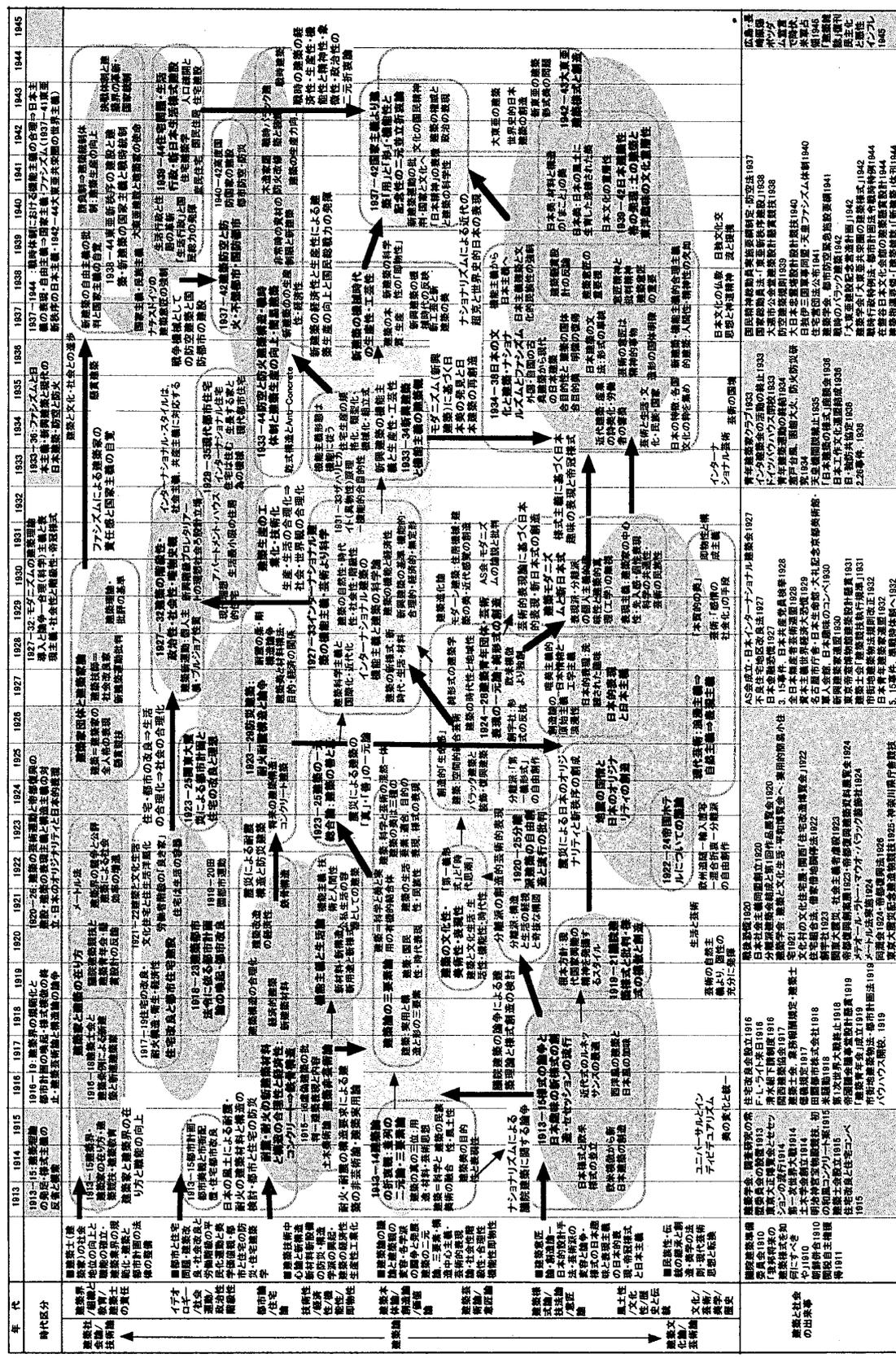


図1 1910~1940年代における日本建築思想の変遷

\* (株) 久米設計  
 \*\* 名古屋工業大学社会開発工学科  
 \*\*\* 名古屋工業大学社会開発工学科  
 \*\*\*\* 名古屋工業大学社会開発工学科

工博  
 大学院生・工修  
 助手・工修  
 教授・工博

KUME CORPORATION, Dr.Eng.  
 Graduate Student, Nagoya Inst. of Technology, M.Eng.  
 Research Assoc., Nagoya Inst. of Technology, M.Eng.  
 Prof., Nagoya Inst. of Technology, Dr.Eng.